臨床を豊かにするための研究法（基礎編）−120分で症例報告の枠組みを書こう

東京大学医学部附属病院　言語聴覚士　兼岡麻子

「研究」は敷居が高く，特別な人だけが取り組むものだと思う人もいるかもしれません．しかし，言語聴覚士なら誰でも，臨床経験年数にかかわらず，常に臨床で感じた疑問を調べ，考え，工夫し，療法の効果を検証する研究的な視点を持つ必要があります．そしてその過程を学術的に記し，広く公開することで，自分自身はもちろん，多くの言語聴覚士の臨床を豊かにすることができます．

本研修は，臨床研究の基礎となる「症例報告を書く」ことを目的に設計しました．受講者の皆様には，ご自身の療法の経過や工夫した経験などを，学術的に書き記す作業を体験して頂きます．

本研修の目的

１．症例報告の枠組みを書く．

２．論文に仕上げるための道筋を理解する．

３．次のアクションプランをたてる．

　本研修の終了後，アクションプランを実行することで，症例報告の執筆を目指します．

受講に際しご準備いただくもの

１．雑誌「言語聴覚研究」の「執筆要項」および「投稿規定」（同誌の最後に掲載されています．インターネットでダウンロードすることもできます．）

２．Microsoft Word （他の文書作成ソフトでも構いません）

３．ご自身がこれまでに担当した患者さんの中から，症例報告にまとめてみたいと思う方を思い描いておく．

参考文献　（すべて雑誌「言語聴覚研究」　に掲載されています．講義の中で少しご紹介します．事前に目を通しておかれると理解しやすいかもしれません．）

1. 文法障害を主徴とする特異的言語障害を合併した成人自閉症スペクトラム症の１例．小川七世ほか15巻2号，2018
2. 失語症状を伴う症例に対する術中覚醒下言語野マッピングの１例―—術前に超皮質性感覚失語を呈し言語症状の変動が顕著であった神経膠腫1例の経験から．瀬溝香澄ほか．16巻２号，2019
3. 肢節運動失行と考えられる左上肢の拙劣症を呈した1例．下地康雄ほか．16巻１号，2019

受講者の皆様へのお願い

講義中、疑問に思われたことは，どんなことでも構いませんので，ご遠慮なさらずにどんどん質問して下さい！